

フォトエッセイ 国境なき音楽紀行II

第3回 ウィーン～楽に寄す、シューベルトの心～

日頃、音楽を通して人々と交流し、世界各地を旅することが多い。これら旅の印象と感動を、フォトエッセイという形でほんの一部でも皆さまにお届けできればと思う。

平井元喜



シューベルト・ザール内部。ホール自体が楽器といつてよく、音を出すと身体全体が包みこまれた。

(写真：平井元喜)

生涯をウィーンで過ごした作曲家フランツ・シューベルト（1797～1828）の作品に『樂に寄す（音樂に寄せて）』という名歌曲がある。ボヘミアンの天才芸術家シューベルトを寄宿させ、創作活動を支援した友人フランツ・フォン・ショーバーの詩に節をつけたものだ。音樂への純粹な愛と感謝の気持ちを謳っている。

今年4月、ウィーンを訪れ、「ワールドツアーアー2016」の一環でピアノリサイタルを開いた。会場は、ウィーン楽友協会とともに名高いコンツェルトハウスのシューベルト・ザール（ホール）。シューベルト最晩年の傑作『ピアノソナタ第21番変ロ長調』を中心に、ウィーンに縁のあるベートーヴェンやショパンの作品、私自身の新作『百人一首による音詩』（冷泉貴実子選）や『Grace & Hope～祈り、そして希望～』（2011）などを演奏した。

余談ながら、今回のウィーン公演のスピーカーの一つ、エスター・ハーディー侯爵家は、ハプスブルク帝国、オーストリア＝ハンガリー帝国時代の大貴族で、「交

響曲の父」ハイドンは楽長として30年間、この家に仕えた。シューベルトも、音楽の家庭教師としてエスター＝ハーディー伯爵の別荘に招かれ、一夏を過ごしたことがある。戦前の映画『未成交響曲』では、シューベルトがこの邸宅に滞在中、令嬢カトリーネと恋に落ち、やがて失恋する。

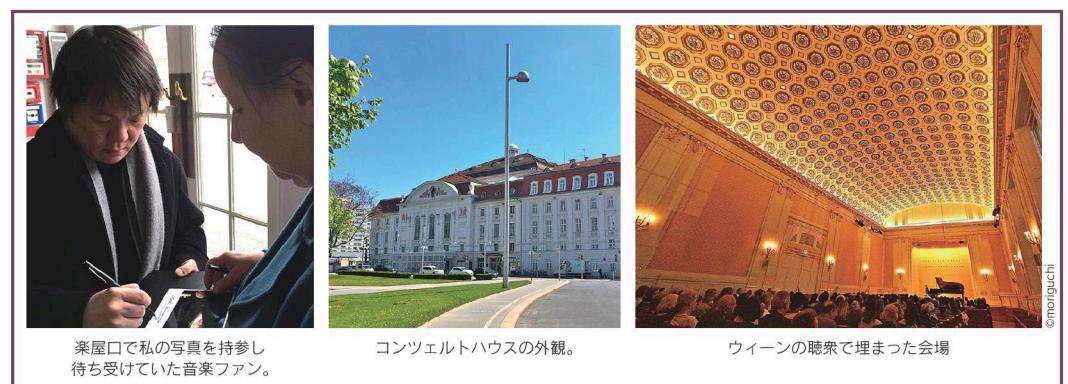
コンサート当日、樂屋口からホールへ入ろうとする人だかりができる。開演6、7時間前にもかかわらず、私のサイン目当てにウィーンっ子たちが「入り待ち」をしてくれていたのだ。想定外のことだった。終演後にCDやプロダラム、くしゃくしゃのメモ用紙などにサインを求められることははあるが、ウイーンのファンは、私の写真をプロマイドしながら奇麗に印刷し持参していた。中には80歳近いおばあさんもいた。1950年代からコンツェルトハウスでデビュする演奏家や指揮者の「入り待ち」、「出待ち」を続けていて、今や伝説となつたアーティストらのサイン入りの写真を額に收め、自宅の部屋の壁一面に飾つているのだという。身に余る歓待に勇気づけられ、コンサート本番は集中して大舞台を楽しむことができた。

ウィーンの聴衆は成熟している。アメリカのように、とにかくスタンディング・オベーションをしてヒューヒューロ笛を楽しむことができる。

※ 東日本大震災「5周年」に際し、3・11後に行われたロンドン、アムステルダム、ウィーンなど「5公演」の収益を震災孤児遣児のための《東日本大震災ふくしまこども寄付金》へ寄付することとし、7月の東京公演の後、福島県庁へ直接届けるとともに被災地で慰問コンサートを行いました。また、ウィーン公演直前に熊本・大分地震が発生したため急遽会場に募金箱を設置し、プログラムの収益と合わせて別途被災地に寄付しました。これらのチャリティーにご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

人種・言語・宗教の壁を超えて、音楽は人の心に直接響く。そして、音楽を愛するという一点において、世界に国境など存在しない。この信念を胸に私の旅は続く。

吹くフレンドリーな派手さはない（これはこれで好きなのであるが）。だが、上品で落ち着いている。静かに「氣」を送るようになれる感動と熱狂をステージある。戦前の映画『未成交響曲』では、シューベルトがこの邸宅に滞在中、令嬢カトリーネと恋に落ち、やがて失恋する。コンサート当日、樂屋口からホールへ入り止まなかつた。ウィーンっ子の幸福で穏やかな表情と心意気に応えるため、シューベルトの作品など4曲を更に演奏した。文字通り、音楽への愛と謝意で胸を物語っていた。アンコールでも拍手が



ウィーン・コンツェルトハウス正面に張られた公演のポスター。

平井 元喜（ひらい もとき）

【プロフィール】ピアニスト、作曲家。73年東京生まれ。桐朋高校、慶應義塾大学文学部哲学科、英王立音楽院大学院卒。これまでヨーロッパ・中東・アフリカ・アジア・米国・中南米各地を演奏旅行。米カーネギーホール、英ウェーブホール、蘭コンセルトヘボウ等でしばしばリサイタルを行う。2016年は、コンツェルトハウス（ウィーン）、バーピカンセンター（ロンドン）、銀座王子ホール、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭など世界各地をツアー。音楽を通して平和・教育・医療・環境問題にも積極的に取り組む。3.11以降、30回以上に渡り復興支援コンサートを続ける。07年よりプロジェクト「日本の民話絵本を世界へ」（朗読・音楽・映像のコラボ）を芸術監督として主導。NHK文化センター、時事通信社トップセミナー等で講演。BBC、NHK、テレビ朝日「題名のない音楽会」など内外各地でテレビ・ラジオに出演。96年よりロンドン在住。www.motoki-hirai.com